

1. 幼児・児童における未来型能力	必要な能力	外界を認知する能力	
	なぜ未来型能力か？	<p>人がこの世に生を受けて、豊かな人間性を育み、いわば「人らしく」生きていくためには、自らを取り囲む外界からの様々な刺激を認知し、必要な情報を適切に取り込み、適応していく必要がある。＜外界＞については外界の物理的なモノと社会的な人間について考えていく。</p> <p>●物理的なモノ・自然界の視聴覚情報 例)光や音、水や緑、動物 ・人工的な物体 例)乗り物や機械音、椅子やボールなど</p> <p>●社会的なヒト・他者 例)家族や、幼稚園の先生、友人 ・客体化された自分の姿 例)写真やビデオの自分</p> <p>※外界を認知する能力には、対人認知能力、社会的推論、コミュニケーション能力も含まれる。</p>	
	具体的な能力	情報処理タイプ：個々の子どもの特性あるいは状況に応じた情報処理タイプの適用	
		<p>【同時処理タイプの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体部分が基となっている。 ビジュアルに目で見える形で情報処理のタイプと言える。 部分と集合に対する認知と認知と関連している。 	<p>【継次処理タイプの課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 順序理解に関する理解が基となっている。 音や声を耳で聞くタイプの情報処理と言える。 時間の流れに対する認知と関連している。
2. 幼児・児童における未来型能力の育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	<p>【同時処理タイプの課題】</p> <p>絵の一部だけが見える状態から、穴をずらしながら、何が描かれているかを尋ねる課題。</p> <p>[3・4歳児]</p> <p>色や形から直感であてている。</p> <p>[5歳児]</p> <p>じっくり穴をのぞき考える様子が見られた。</p>	<p>【継次処理タイプの課題】</p> <p>時間にともない変化する状況を想像できるかどうかをみる課題である。</p> <p>[3歳児]</p> <ul style="list-style-type: none"> なにも答えられない子どもが半数いた課題もみられた。 紙の端っこを指差して「ここ」とか「はみ出ちゃった」と答えた。 場所を回答する場合にも、ごく日常的な場所しかできていなかった。 <p>[4歳児]</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙の中に限定して「ここ」などと答えた。 紙から飛び出して、「上」「下」と、空間を指して答えた。 →紙の中の移動に加えて、広がりが見え始めていた。 自分が現実の体験で行ったことがある場所を答えていた。 <p>[5歳児]</p> <ul style="list-style-type: none"> じっくり考えて、なかなか答えようとしないう子どもが比較的多く見られた。 空間認識がぐっと広がり、飛行機の動き、車の動きに対応した空間を想定できていた。 体験に基づいた、見たことがある場所及び見たことのない空間でも、イメージできていた。
	育成方法の提案・実施	子どもたちによって、どちらかのタイプが得意であったり、苦手であったりする。子どもにわかりやすい伝え方を考えるとき、どちらのタイプが得意かを見極めることは大切と言える。	
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	未実施であるが、それぞれの子どもたちの日頃の様子を観察し、子どもたちが興味・関心のある課題の取り組みをとらえられるようにする。	
3. 未来型能力を指導できる指導者育成	現状の把握 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	子どもたちが身近に使っている玩具や絵本を使って、情報処理のタイプをとらえるものにアレンジした教材課題が作成できればと考えている。	
	育成方法の提案・実施	保育の場面で比較的に簡単に行うことができ、なおかつ、個々の子ども自身に適した情報処理タイプ等の認知的特徴をとらえることができる課題を提案。	
	育成カリキュラム実施の結果 (当該領域のオリジナルデータ・知見)	未実施であるが、上記のような課題を行うことにより、物理的なモノのとらえ方だけでなく社会的なヒトに対する認知やコミュニケーション能力の育成できればと考えている。	